

Ⅱ 調査結果の概要

1 男女平等について（問1）

- 男女の地位の平等について、「社会通念・習慣・しきたりにおいて」を除き「平等になっている」が最も高く、その中でも「学校教育の場において」（77.6%）は約8割で特に高くなっています。
- 「社会通念・習慣・しきたりにおいて」は「男性の方が優遇されている」（66.1%）が6割以上で最も高く、「平等になっている」（26.7%）は約3割となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「平等になっている」は「職場において」「地域社会において」では高くなる傾向がみられます。一方、「家庭生活において」「学校教育の場において」「社会通念・習慣・しきたりにおいて」では大きな変化はみられません。
- 性別でみると、いずれの項目も男性は「平等になっている」、女性は「男性の方が優遇されている」が比較的高くなっています。

2 家庭生活について（問2～問4）

◆家庭内の役割分担の現状（問2）

- 13項目のうち、「生活費を得る（主たる収入）」「家屋の修繕や片づけ」「近所付き合いや地域活動への参加」の3項目は「夫」（それぞれ63.9%、48.3%、35.9%）が最も高く、その中でも「生活費を得る（主たる収入）」は6割以上となっています。
- 「食事のしたく」「食後の片づけ」「洗濯」「掃除」「家計の管理」「育児」「看護・介護」「学校行事への参加」の8項目は「妻」が最も高く、その中でも「食事のしたく」（79.2%）、「洗濯」（72.1%）は7割以上となっています。
- 「高価な買い物など」「子どものしつけ・教育」の2項目は「夫婦同じくらい」（それぞれ45.2%、37.7%）が最も高く、「子どものしつけ・教育」は「妻」（36.8%）が同程度に高くなっています。また、「近所付き合いや地域活動への参加」は「夫」と「夫婦同じくらい」（35.5%）が同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「夫婦同じくらい」は、「近所付き合いや地域活動への参加」を除き、同程度または高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、「食事の後片づけ」「掃除」「家計の管理」「育児」は、男女とも「妻」が最も高く、女性が高くなっています。一方、「家屋の修繕や片づけ」は、男女とも「夫」が最も高く、男性が高くなっています。また、「子どものしつけ・教育」「看護・介護」「近所付き合いや地域活動への参加」「学校行事への参加」は、最も高い項目が男女で異なっています。

◆家庭内の役割分担の理想（問3）

- 13項目いずれも「男女で分担すべき」が最も高く、その中でも「子どものしつけ・教育」（86.9%）は約9割で最も高くなっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「男女で分担すべき」は、13項目いずれも同程度または高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、いずれの項目も男女とも「男女で分担すべき」が最も高くなっています。その中で「家屋の修繕や片づけ」では、「男女で分担すべき」は（男性 52.0%、女性 64.8%）で女性が高くなっています。

◆結婚や家庭観（問4）

- 性別の役割分担に関する項目「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は「反対」（38.5%）が約4割で最も高く、「どちらかといえば反対」（28.4%）との合計値『反対』（66.9%）は約7割となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」についての合計値『反対』は高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、合計値『反対』（男性 60.8%、女性 72.1%）は女性が高くなっています。
- 結婚に関する5項目はいずれも「賛成」が最も高く、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計値『賛成』は「結婚は、形式等にこだわらなくてよい」（83.1%）が8割以上で最も高く、次いで「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」（76.4%）が7割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、結婚に関する5項目についての合計値『賛成』は高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、合計値『賛成』は、「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「結婚しても相手に満足できない場合には離婚すればよい」は女性が高くなっています。

3 子育てや介護について（問5～問9）

◆沼田市の出生率低下の理由（問5 ○はいくつでも）

- 「経済的に余裕がないから」（63.9%）、「子どもの教育にお金がかかるから」（61.8%）の2項目が6割以上で同程度に高く、次いで「結婚する人が少ないから」（55.7%）、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」（53.9%）の2項目が5割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「結婚年齢が上がっているから」は低くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、男女とも「経済的に余裕がないから」（男性 66.0%、女性 63.4%）が最も高くなっています。

◆父親の育児参加についての考え（問6）

- 「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」（69.6%）が約7割で最も高く、次いで「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」（16.4%）が1割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」は高くなり、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」は低くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、男女とも「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」（男性 66.4%、女性 72.4%）が最も高くなっています。

◆男性の育児・介護休業の取得についての考え（問7）

- 「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」（60.6%）が6割以上で最も高く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」（31.9%）が3割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」は高くなり、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」は低くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、男女とも「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」（男性 60.4%、女性 61.2%）が最も高くなっています。

◆老後の生活への不安（問8 ○はいくつでも）

- 「年金など収入が少ないこと」（66.6%）が約7割で最も高く、次いで「財産や預金が少ないこと」（50.6%）が5割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「年金など収入が少ないこと」「財産や預金が少ないこと」は前回（それぞれ 72.2%、58.8%）より若干低くなっています。
- 性別でみると、男女とも「年金など収入が少ないこと」（男性 61.6%、女性 69.6%）が最も高くなっています。また、「共に暮らせるパートナーがいないこと」（男性 17.6%、女性 7.9%）は男性が高くなっています。

◆介護が必要になった場合に介護をしてもらいたい相手（問9）

- 「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」（40.7%）が4割以上で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」（24.4%）、「自宅で介護職員などの専門家」（20.7%）の2項目が2割以上で同程度となっています。
- 過去2回の調査とは一部の選択肢が異なることを考慮する必要がありますが、おおむね同様の傾向となっています。
- 性別でみると、男女とも「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」（男性 37.6%、女性 43.1%）が最も高く、次いで男性は「配偶者・パートナー」（34.0%）、女性は「自宅で介護職員などの専門家」（23.3%）が高くなっています。

4 社会活動・地域活動について（問 10～問 12）

◆地域活動等への参加状況（問 10）

- 「現在も活動に参加していないし、今後も参加する予定はない」（36.8%）が約4割、次いで「活動に参加している」（32.8%）、「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」（29.7%）の2項目が約3割で同程度となっています。
- 「活動に参加している」「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」の合計値『参加している・してみたい』（62.5%）は6割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 性別でみると、男性は「活動に参加している」（40.8%）、女性は「現在も活動に参加していないし、今後も参加する予定はない」（36.6%）が最も高くなっていますが、合計値『参加している・してみたい』（男性 63.6%、女性 62.9%）は同程度となっています。

◆地域活動等に参加する際に支障になっていること（問 11 ○はいくつでも）

- 「仕事が忙しく、時間がない」（42.4%）が4割以上で最も高く、次いで「経済的な余裕がない」（26.0%）、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」（24.0%）の2項目が2割以上で同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

◆地域活動等における男女の不平等の有無（問 12 ○はいくつでも）

- 「地域の活動等において、男女の不平等はない」（37.9%）が約4割で最も高く、次いで「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」（19.9%）、「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」（16.7%）の2項目が約2割となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 性別でみると、男女とも「地域の活動等において、男女の不平等はない」（男性 42.0%、女性 35.8%）が最も高く、次いで男性は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」（20.0%）、女性は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」（23.6%）が高くなっています。

5 就労について（問 13～問 20）

◆進路や職業を選択する際における性別意識の有無（問 13）

- 「性別をほとんど意識せずに選択した」（55.7%）が5割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」（14.5%）、「どちらかといえば性別を意識して選択した」（13.6%）の2項目が1割以上で同程度となっています。
- 「性別をかなり意識して選択した」「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計値『意識して選択した』（21.5%）は2割以上、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」「性別をほとんど意識せずに選択した」の合計値『意識せずに選択した』（70.2%）は7割以上となっています。

○過去2回の調査と比較すると、合計値『意識せずに選択した』は前回(68.0%)や前々回(62.6%)より若干高くなる傾向がみられます。

○性別でみると、男女とも最も高い「性別をほとんど意識せずに選択した」(男性62.8%、女性51.2%)は男性が高くなっています。

◆女性が職業を持つことについての考え(問14)

○「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」(60.9%)が6割以上で最も高く、次いで「子どもができたなら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(23.7%)が2割以上となっています。

○過去2回の調査と比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」は高くなり、「子どもができたなら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は低くなる傾向がみられます。

○性別でみると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」(男性50.0%、女性68.6%)は女性が高くなっています。

◆仕事の上での男女格差についての考え(問15)

○3項目のうち、「仕事の内容の男女格差をどう思いますか」は「やむを得ない」(44.6%)が4割以上、「賃金の男女格差をどう思いますか」「昇進の男女格差をどう思いますか」はいずれも「不当である」(それぞれ49.4%、51.1%)が約5割で最も高くなっています。

○過去2回の調査と比較すると、「賃金の男女格差をどう思いますか」「昇進の男女格差をどう思いますか」では「やむを得ない」は低くなり、「不当である」は高くなる傾向がみられます。「仕事の内容の男女格差をどう思いますか」では大きな変化はみられませんが、同様の傾向が若干みられます。

◆女性が働き続けるために特に必要なこと(問16 ○はいくつでも)

○「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(67.8%)が約7割で最も高く、次いで「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」(61.2%)、「家族の協力や理解」(60.6%)の2項目が6割以上で同程度となっています。

○過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

○性別でみると、男性は「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(71.6%)が7割以上で最も高く、女性は「家族の協力や理解」(67.2%)、「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(66.7%)の2項目が約7割で同程度に高くなっています。

◆職業生活において女性が個性と能力を発揮できる社会を目指すために必要だと思うこと(問17 ○はいくつでも)

○「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」(50.9%)が5割以上となっています。

○前回調査と比較すると、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は前回(50.2%)より高く、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」は前回(57.0%)より低くなっています。

○性別でみると、男女とも「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」（男性 56.0%、女性 62.1%）が最も高く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」（男性 54.4%、女性 49.6%）となっており、男性は上位2項目が同程度となっています。

◆日本の男性の働き方の現状についての考え（問 18）

○「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」（49.4%）が約5割で最も高く、次いで「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」（25.4%）が2割以上となっています。

○前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

○性別でみると、男女とも最も高い「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」（男性 44.0%、女性 53.9%）は女性が高くなっています。

◆職場における男女差の有無（問 19 現在働いている場合）

○8項目のいずれも「ない」が最も高く、その中でも「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」（65.0%）が最も高くなっています。

○「お茶くみや雑用は女性がする」は「ある」（27.2%）が約3割で比較的高くなっています。

○過去2回の調査と比較すると、「ない」は、8項目いずれも同程度となっています。

○性別でみると、「ない」は「昇進・賃金昇給に男女差がある」「研修・訓練等の機会に男女差がある」「お茶くみや雑用は女性がする」は男性が高くなっています。また、「お茶くみや雑用は女性がする」「性的な言動で不快な思いをしたことがある」の「ある」は女性が高くなっています。

◆生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人・地域活動」の優先度の現実と希望（問 20）

○「（1）現実（している）」は、「仕事を優先」（33.3%）が3割以上で最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」（22.7%）が2割以上となっています。

○性別でみると、男女とも「仕事を優先」（男性 38.4%、女性 30.1%）が最も高く、次いで男性は「仕事と家庭生活をともに優先」（24.4%）が高く、女性は「家庭生活を優先」（22.2%）と「仕事と家庭生活をともに優先」（22.0%）が同程度に高くなっています。

○「（2）希望（したい）」は、「仕事と家庭生活をともに優先」（21.0%）、「家庭生活を優先」（19.1%）、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」（16.6%）の3項目が約2割で同程度に高くなっています。

○性別でみると、男性は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」（23.6%）、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」（21.4%）が最も高くなっています。

○過去2回の調査と比較すると、「（1）現実（している）」「（2）希望（したい）」のいずれもおおむね同様の傾向となっています。

○「（1）現実（している）」と「（2）希望（したい）」をあわせてみると、「仕事を優先」は「（1）現実（している）」（33.3%）が「（2）希望（したい）」（6.3%）より高く、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」は「（2）希望（したい）」（16.6%）が「（1）現実（している）」（5.7%）より高くなっています。

6 人権について（問 21～問 23）

◆女性の人権が尊重されていないと感じること（問 21 ○はいくつでも）

- 「男女の固定的な役割分担を押しつけること（「男は仕事、女は家庭」など）」（49.4%）が約5割で最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）」（35.3%）、「痴漢やストーカー行為」（34.1）%の2項目が3割以上で同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 性別でみると、大きな差がみられない項目が多い中、「女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ」（男性 11.2%、女性 20.3%）は女性が高くなっています。

◆ここ数年間におけるパートナー（配偶者や恋人など）からの暴力（DV）の有無（問 22）

- 「精神的な暴力」を除き、「経験したことがない」が9割以上、「受けたことがある」が1割未満となっています。「精神的な暴力」は「経験したことがない」（84.4%）が8割以上、「受けたことがある」（8.8%）が約1割で他の項目より「受けたことがある」が高くなっています。
- 過去2回の調査と比較すると、5項目のいずれも大きな変化はみられません。
- 性別でみると、5項目のうち「身体的な暴力」「精神的な暴力」は、性別では女性、年代別では30～50歳代で「受けたことがある」が1割程度みられます。

◆「受けたことがある」行為についての相談相手

（問 22－1 問 22 で1つでも「受けたことがある」場合 ○はいくつでも）

- 「どこ（だれ）にも相談しなかった」（41.6%）が4割以上で最も高く、次いで「家族や親戚」（36.4%）、「知人・友人」（35.1%）が3割以上で同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、「知人・友人」は前回（46.7%）より低くなっています。
- 性別でみると、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（65.0%）が6割以上で最も高く、女性は「家族や親戚」（42.6%）、「知人・友人」（38.9%）の2項目が約4割で同程度に高くなっています。

◆どこ（だれ）にも相談しなかった理由

（問 22－2 問 22－1 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」場合 ○はいくつでも）

- 「相談しても無駄だと思ったから」（40.6%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（37.5%）の2項目が約4割で同程度、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（31.3%）が3割以上となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

◆パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に有効だと思う支援（問 23 ○はいくつでも）

- 「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」（66.4％）が6割以上で最も高く、次いで「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」（53.8％）、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援」（53.2％）の2項目が5割以上で同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、上位項目を中心にほとんどの項目で高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、男女とも最も高い「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」（男性 58.4％、女性 72.4％）は女性が高くなっています。

7 男女共同参画社会について（問 24～問 27）

◆各種方針や政策決定に女性の意見がどの程度反映されていると思うか（問 24）

- 4項目のうち、「県や市の行政の場では」を除き「ある程度されている」が最も高く、「県や市の行政の場では」は「わからない」（36.6％）が約4割で最も高くなっています。
- 「十分されている」「ある程度されている」の合計値『されている』は「家庭生活の場では」（77.9％）が約8割で最も高く、次いで「職場では」（68.2％）が約7割となっています。
- 「あまりされていない」「まったくされていない」の合計値『されていない』は「県や市の行政の場では」（20.4％）、「社会活動・地域活動の場では」（18.1％）が約2割で同程度に高くなっています。
- 過去2回の調査と比較すると、合計値『されている』は「職場では」で高くなる傾向がみられます。
- 性別でみると、「家庭生活の場では」で男性は「十分されている」（43.2％）、女性は「ある程度されている」（46.6％）、「県や市の行政の場では」で男性は「ある程度されている」（40.0％）、女性は「わからない」（38.8％）が最も高くなっています。

◆行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図るうえで大切だと思うこと（問 25 3つまで○）

- 「女性が各分野で活躍すること」（46.1％）が4割以上で最も高く、次いで「女性議員を増やすこと」（26.7％）、「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」（26.0％）の2項目が約3割で同程度となっています。
- 過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。
- 性別でみると、男女とも「女性が各分野で活躍すること」（男性 44.0％、女性 48.8％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

◆男性も女性もともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくために特に必要
だと思うこと（問 26 3つまで○）

○「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」（47.8%）、「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること」（46.8%）の2項目が約5割、次いで「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（41.2%）が4割以上となっています。

○過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

○性別でみると、男女とも「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」（男性 46.0%、女性 49.9%）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

◆男女共同参画社会の実現に向け沼田市が特に取り組むべきこと（問 27 3つまで○）

○「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」（53.2%）が5割以上で最も高く、次いで「男女平等を推進する教育・学習の充実」（36.1%）、「男女共同参画に向けた意識づくり」（32.8%）の2項目が3割以上となっています。

○性別でみると、男女とも「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」（男性 48.0%、女性 58.3%）が最も高く、次いで男性は「男女共同参画に向けた意識づくり」（41.6%）が高く、女性は「男女平等を推進する教育・学習の充実」（35.5%）、「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」（34.7%）、「生涯を通じた健康づくりの推進」（33.9%）の3項目が同程度に高くなっています。

8 男女平等や男女共同参画について感じること（自由記述）

○約 150 件のご意見が寄せられました。